



Title	巻頭言
Author(s)	西原, 俊明
Citation	長崎大学言語教育研究センター論集, 8, p.[1]; 2020
Issue Date	2020-03-01
URL	http://hdl.handle.net/10069/39824
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-28T05:53:37Z

巻 頭 言

言語教育研究センターでは、外国語教育の運営と改善につながる種々の取り組み、および研究を継続的に行っています。2019年度の主な取り組みを報告します。授業運営の面では、英語の授業の効率と効果を確実なものとするため検討を重ねてきました。検討の結果、ハイブリッド授業と呼ぶ新たな取り組みを試験的に2020年度から実施することになりました。この授業は、2クラスの授業を1人の教員が同時に面倒を見るというものです。まず、1つのクラス学生が45分の対面授業に参加し、その後e-learningで学ぶというものです。2クラスが45分で教室を入れ替わり、異なるメニューをこなすこととなります。学生の集中力を維持するという目的とe-learningによる学習を継続的に段階的に行うという目的を同時に達成するものです。また、LACSを通して課題配信を徹底し、教育の質の保証を可視化することを目指したことになりました。学内外の評価を受けるための資料を保持しておくという目的も含まれています。

長崎大学では、河野学長がプラネタリーヘルスに寄与する教育を掲げられました。これからの外国語授業の中にも学長が掲げられた観点を取り入れていくこととなります。これに加えて、言語教育研究センターでは、MEET (More Efficient and Effective Teaching) を目標としてあげ、3 meets を展開する授業を目指します。3 meets とは、i) Meet the changing needs, ii) Meet the standard, iii) Meet the expectations from students.です。

言語教育研究センターの研究成果の発信という点で、大きな変化がありました。各教員がそれぞれ所属する学会で研究成果を発表するのはもちろんですが、言語教育研究センター論集を刊行しその成果を発表しています。昨年度から論文は審査制のみとなり、今年度から電子ジャーナルとなりました。より多くの方々に読んでいただきたいという願いとともに研究レベルの維持という気持ちが込められています。また、さらなる研究力の向上、研究成果の科学的根拠を示すという目的のために、関西大学の水本先生（教育統計、教育コーパス構築・分析の専門家）をFD講師としてお招きし、お話を伺う機会を持ちました。

組織ガバナンス改革にかかる特別教育研究経費は、オックスフォード大学講師陣によるEMIプログラム派遣、ワークショップ参加費等にあて、その後研修内容を共有するということにしました。

2019年3月

言語教育研究センター長 西原俊明